

事業報告書

事業名 不登校の子どもたちの居場所 ロビンソン



- 1 実施団体 フリースペースロビンソン
- 2 担当課 教育委員会指導室
- 3 実施時期 2021年11月12日～2022年3月25日
- 4 参加者 全14回で、子ども述べ71人の参加  
(1回平均5人)

日にち	子ども	保護者	スタッフ	その他(見学など)
11/12	5	1	5	
11/19	5	1	5	1
11/26	6	1	5	1
12/10	4		5	
12/17	6	1	5	
12/24	4	1	7	2
1/14	3	1	5	
1/21	6	1	5	
1/28	4	2	5	2
2/18	8	2	5	
2/25	6		5	1
3/11	5		5	
3/18	5		5	
3/25	4		5	

5 実施場所 ネットたまぐーセンター、河辺市民センター

6 事業の目的 不登校の子どもたちが、家から一歩踏み出し、同じような悩みを持つ友人や、わかってくれる大人、経験者と出会い、「遊び・共食・対話」を通して、人への信頼や自己肯定感を膨らませ、自立に向けて歩みを進めることを目的とする。

7 役割分担

・団体の役割 スタッフの確保 会場準備・設営  
その他必要な事項の企画・運営

・担当課の役割 広報おうめへの掲載 広報活動 会場の確保  
その他

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

・家庭の中に孤立しがちな不登校の子どもたちが、家族以外の人と出会う居場所を作ることができた。

・参加した子どもの中には、継続して楽しみに通うようになった子もおり、元気を回復して成長していく姿が見られた。

・このような活動を待ち望んでいたという保護者の声が聞かれ、子どもが不登校になったことによる親の不安や負担が安心感に変わっていったことが伺えた。また、子どもの姿を通して事業への信頼が生まれ、地域への広がりがみられた。

9 目標達成

事業の目標：現在、家庭の中にしかコミュニティを持たない不登校の子どもたちが、コミュニティを少し広げながら安心して過ごせる居場所を地域に定着させる

目標の達成具合：子どもたちが活動日を楽しみにしており、継続して参加する中で、自分のありのままの姿で過ごすことができるようになってきている。不登校の子の保護者だけでなく、地域の人や

学校の先生、社会福祉協議会等による見学、相談、問い合わせもあり、地域の中にこうした居場所があることの安心感が広がりつつあると感じている。

## 10 事業の実施内容

11/12	昼食(団子汁、ウィンナー他)とおやつ(さつまいももち)作り 折り紙、ゲーム、裁判ごっこ等の室内遊び
11/19	昼食(ご飯とみそ汁、肉野菜炒め他)とおやつ(プリン)作り 材料の買い物に出かけ、途中で公園遊び。食後も公園へ。
11/26	昼食(かぼちゃシチューとパン他)とおやつ(ポップコーン)作り 公園でおにごっこ、ぶらんこ、すべり台など
12/10	昼食(豚汁、オムレツ他)とおやつ(リンゴケーキ)作り 工作(スノードーム)、公園でぶらんこ、地面におえかき他
12/17	昼食(ポテトミートグラタン他)とおやつ(蒸しパン)作り パソコン、折り紙、駅前散歩、公園ですべり台、ブランコ他
12/24	昼食(クリスマスランチ)とおやつ(クリスマスケーキ)作り カードゲームやおしゃべり等で過ごす
1/14	昼食(カレーライス他)作り 館内散歩、リアルスマブラごっこ、カードゲーム他
1/21	昼食(ハンバーグ他)とおやつ(フルーツポンチ)作り どろけい、工作、ダンス他
1/28	昼食(チキンライス、みそ汁他)とおやつ(ゼリーとクッキー)作り カードゲーム、パズル、福笑い他
2/18	昼食(炊き込みピラフ、ロールキャベツ、フライドポテト他)作り ネイルチップ作り、かくれんぼ他
2/25	昼食(ポトフ、鶏と大根の煮物他)とおやつ(フルーツサンド)作り 屋上でおにごっこ、忍者かくれんぼ、ネイルチップ作り他
3/11	昼食(ひき肉と白菜煮他)とおやつ(フルーツマシュマロサワーヨーグルト)作り、おうさまおにごっこ、会社ごっこ他
3/18	昼食(キムタクご飯他)とおやつ(わらび餅、白玉団子)作り 会社ごっこ、風船遊び、びゅんびゅんゴマ作り、ゴムとび他

3/25	昼食(カレーライス、卵焼き、餃子他)とおやつ(ヨーグルトケーキ)作り、裁判ごっこ、パズル、ゲーム、なぞとき大会他
------	----------------------------------------------------------

## 11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	3	3
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

## 12 まとめ（今後の課題や改善点など）

現在通っている子どもたちが楽しみにしている活動をさらに広げていくためにも、スタッフの確保と会場の確保が課題である。そして、さらに広報活動にも力を入れていきたい。

子どもたちの安全と安心を守るスタッフを安定的に配置するために、将来的には有給化も必要であると考えます。また、子どもたちが居心地よく過ごすためには、スタッフにとっても居心地がよいことが大切であると実感している。大人たちが、ありのままを認めるまなざし、お互いを尊重しあえるような関わりについて学び合い、力をつけていくことが必要である。

また、会場の変更など、環境の変化が子どもたちにとってストレスになる場合もあり、できれば活動場所は定着させたいと思っている。

学校との連携については、今年度、青梅市の教育関係機関とフリースクール等民間施設・団体との情報交換会にも出席させていただき、多く

の学びを得ることができた。今後も市の教育関係機関や各団体、各行政機関とのネットワークを大切にしながら、学校とも連携しつつ、子どもたちの育ちを見守っていきたい。

## 13 その他